

3.4 被害記録による首都圏の歴史地震の調査研究

担当：都司 嘉宣（東京大学地震研究所）

今回の報告

内容： 1855年安政江戸地震によって生じた死者の詳細分布図の作成

安政二年十月二日（1855-XI-11）の古記録のなかから、地震による家屋倒壊、火災発生による死者の発生地点の詳細図を作成することを試みた。武者（1951）の「日本地震史料」、東京都（1973）の「安政江戸地震災害誌 下巻」、地震研究所（1985）の「新収・日本地震史料、第5巻、別巻2-1,2-2」によって、大名旗本などの武家以外の居住した市街地での死者の発生地点に関する情報をデータベース化した。その結果、当時の江戸市中で、合計473個の地点での死者に関する記録が得られた。その結果を、当時の市街地図である「江戸切絵図」（人文社所蔵本、「尾張屋清七板」（嘉永～文久年間））および平凡社（2002）「日本歴史地名大系13・東京都の地名」を参照して、当時の町名ごとの死者数を示す図を作成した。死者発生数の多かった、江戸城の東方（ほぼ現在の中央区・墨田区・江東区に相当する）の結果をお示しする。図は、江戸切絵図のうち、つぎの6枚を用いている。

第7図	日本橋・北内神田・両国・浜町	上が北
第8図	八丁堀・霊岸島・日本橋南	上が西
第18-A図	本所 - 西	上が西
第18-B図	本所 - 東	上が西
第19-A図	本所深川 - 西	上が西
第19-B図	本所深川 - 東	上が西

言えること

死者はまんべんなく分布しているのではなく、集中して発生している「町」（江戸市中の町、現在の1～4ブロックが1つの町を形成している）があることが分かる。

今年度末までに

- (1) 江戸市中のすべての範囲について、図を完成させる。
- (2) 現在の2万5千の一地図（あるいはより大縮尺の地図）に、死者分布を転写する。のを目標としたい。

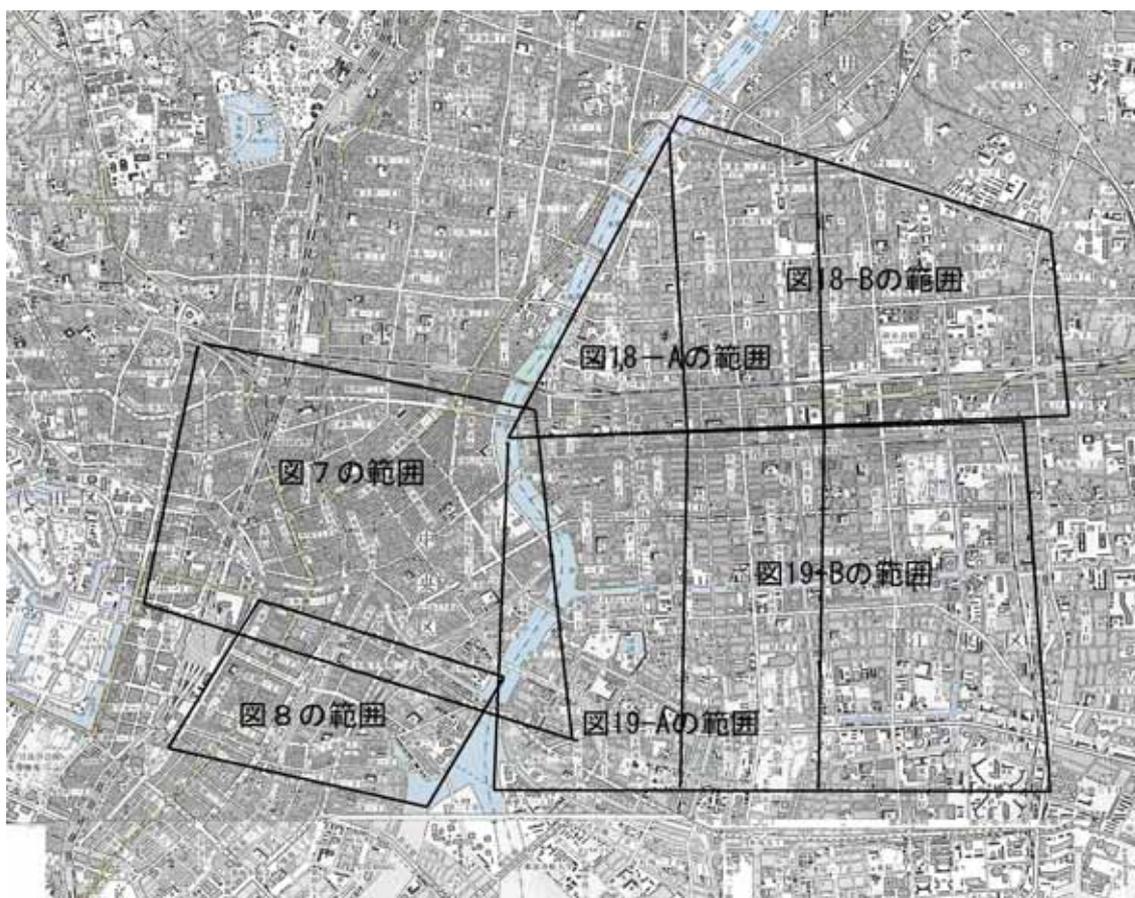
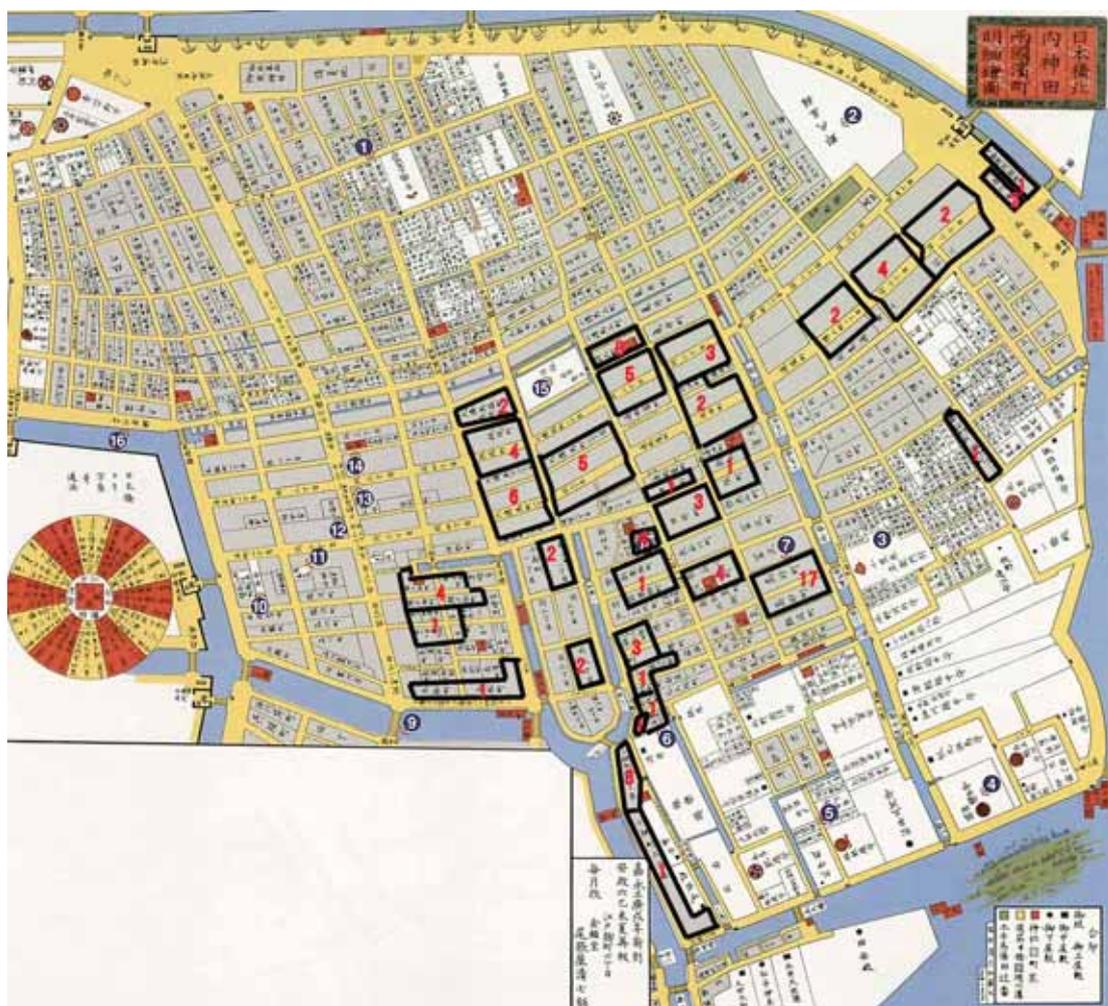


図0 江戸切絵図の6枚の図の範囲



第 図 「図7・日本橋・北内神田・両国・浜町」の死者分布
高砂町で（中央区日本橋富沢町）死者 17 人が出ている。



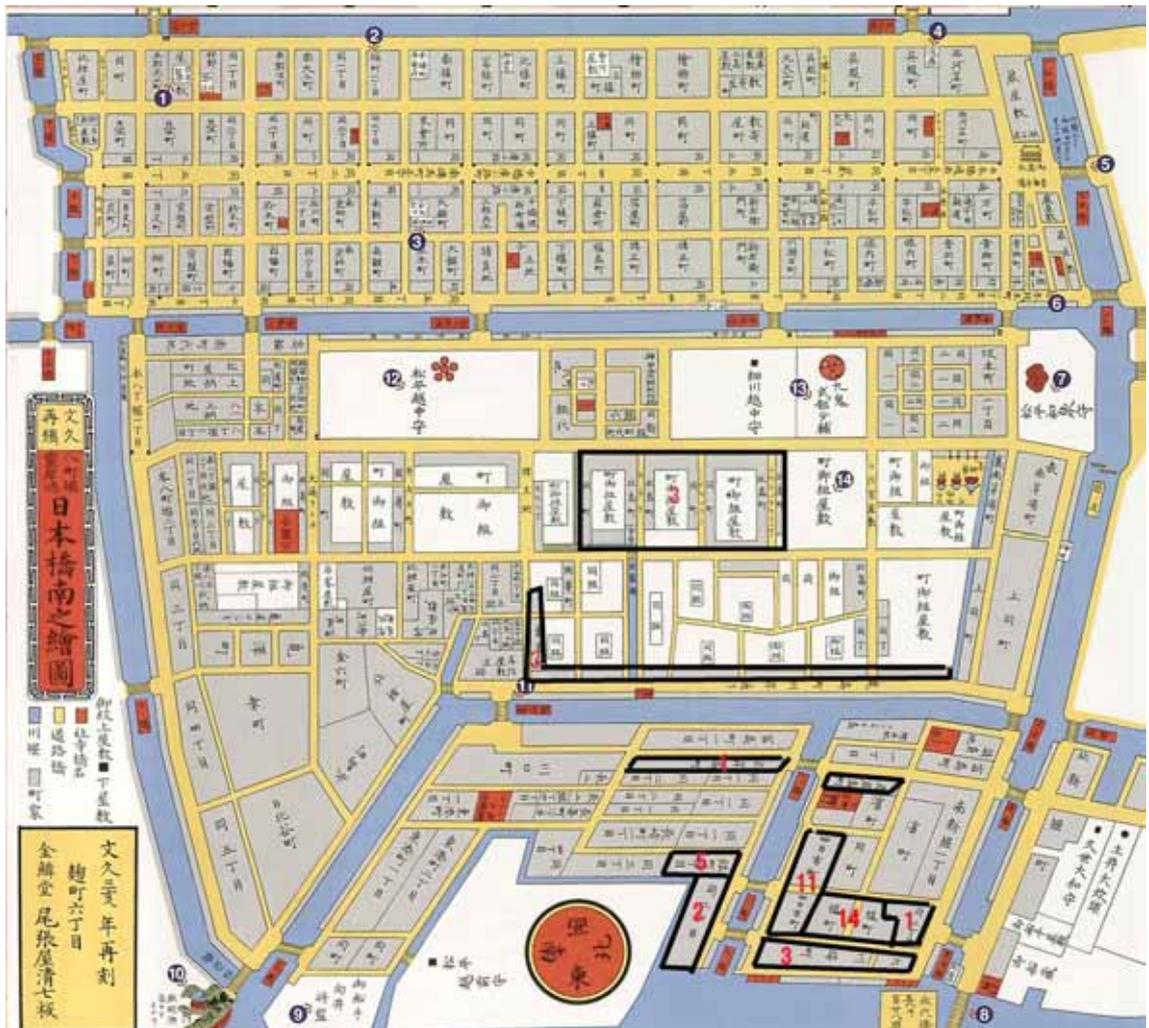


図 「第8図 八丁堀・霊岸島・日本橋南」





図 第18-A図 本所 - 西



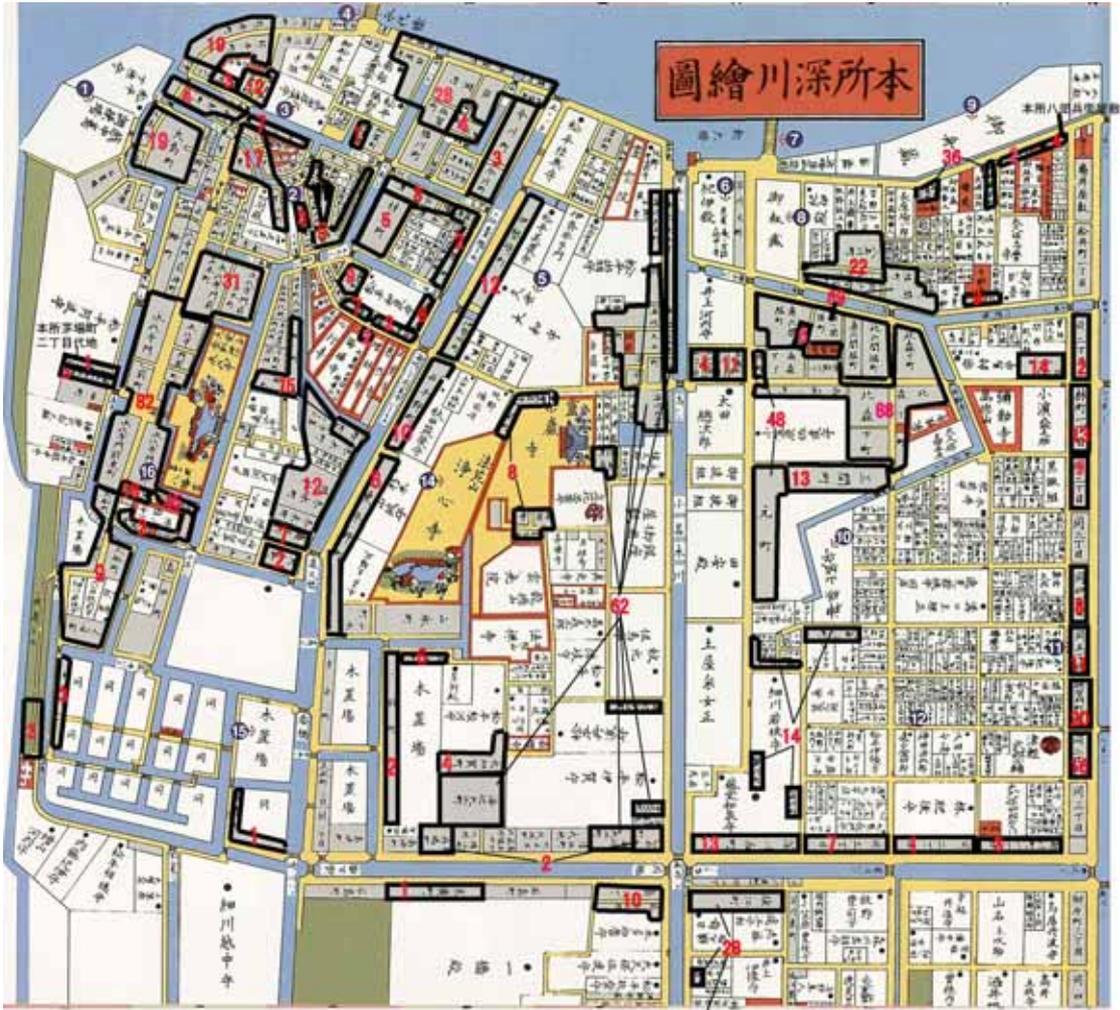
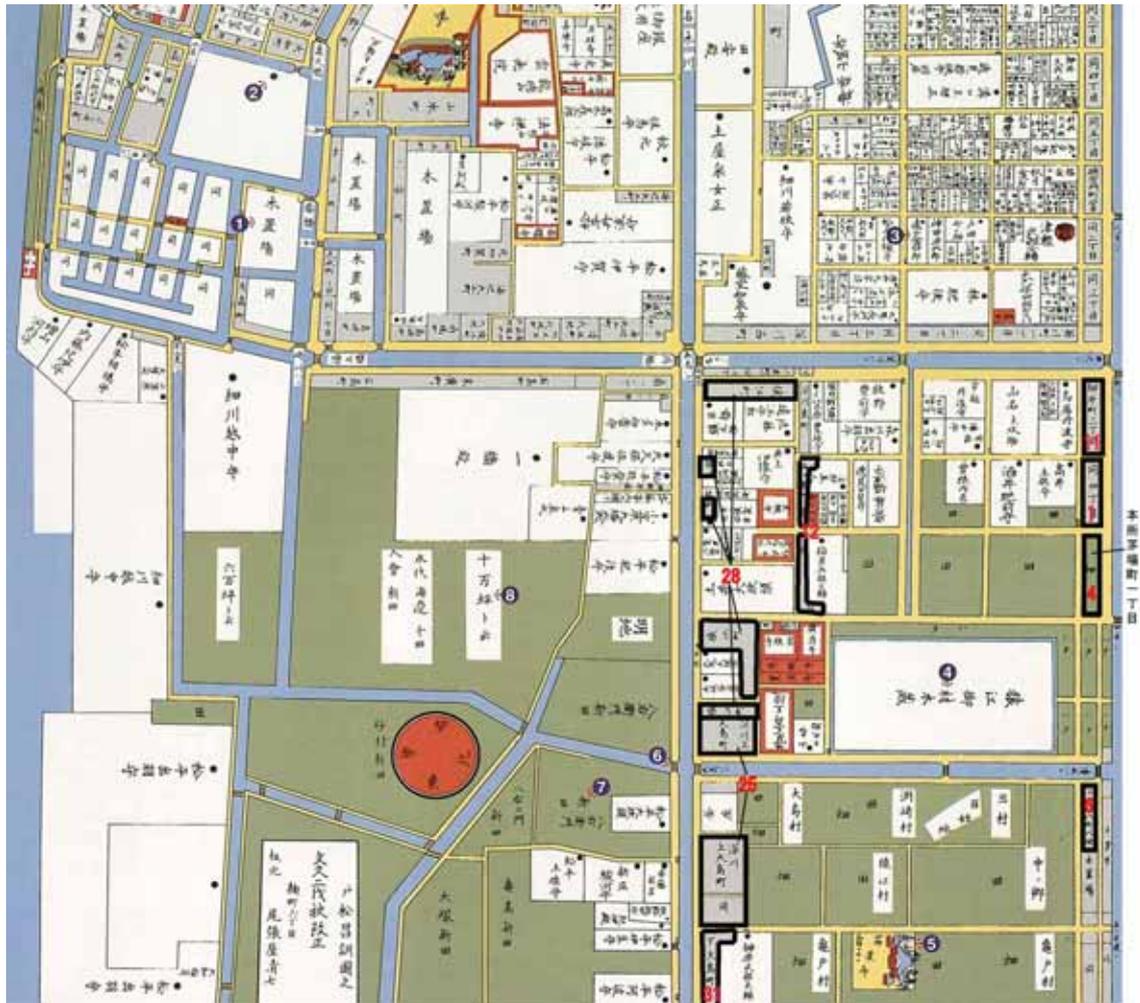


図 第 19-A 図 本所深川 - 西 上が西





第 19-B 図 本所深川 - 東

